

# 六戸町商工会行動プラン

～テーマ：創業・地域資源・商店街を活かした六戸町の活力とにぎわいの創出～

## (1) 商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

### ○自地域の総括的概要と現状課題

当町の人口は現在約1万6百人である。農業が主要産業で、にんにく、長芋、ごぼうなど根菜類の生産が盛んであるほか、特産品としては“青森シャモロック”などがある。産業構造は三次産業が約68%、二次産業が約30%を占めており、事業者の減少と高齢化が進んでいるものの、依然として雇用の多くを二次、三次産業に依存している。また、町内一円に観光資源は点在しているが、観光産業として地域経済への波及効果は大きいとは云えない。町は「第5次六戸町総合振興計画(前期基本計画)」で『活力とにぎわいあふれる六戸町』を掲げ、“農産物のブランド化と特産品開発の促進”、“商工会による商工業者の育成と時代変化に対応した商工業経営の促進”、“物産・観光の振興”に取り組むとしている。

### ○人口動態

人口は、過去20年ほどで約1%(1百人余り)増加しているものの、2040年には約8千8百人まで減少するとの推計がでている。また、高齢化も進み、20年ほどで労働者人口は約65%に、60歳以上の割合も約31%から約43%となり、今後も進むことが想定される。

### ○商工業者や小規模事業者の動向

過去20年ほどで商工業者数は約13%(48者)減少、ほぼ小規模事業者である。本会独自調査では年率換算で0.9%減となり10年後は226者へ減少する見込みである。

|        | H13 | R3  | 対比増減 | 年率換算  | R6  | R15 | R6比 |
|--------|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|
| 商工業者   | 366 | 318 | △48  | △0.7% | 316 | 298 | △18 |
| 小規模事業者 | 297 | 246 | △51  | △0.9% | 244 | 226 | △18 |

### ○その他産業構造など特記事項

当町を国道45号線が東西に走り、市街地には“道の駅ろくのへ”や商店街があるが、買回り品や専門品は車で20分圏内にある十和田市やおいらせ町に多くを依存している。“青森シャモロック”など一部の特産品は生産量が限られるため流通量は少ない。また、農産物加工商品が少なく、多くは原産物のまま出荷されている。

## (2) 重点推進施策

### ○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、雇用の受け皿となる事業者の創業・事業承継や地域資源の付加価値を高めるとともに、商店街地区の商業振興策に取り組むことで地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献します。

### ○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・雇用の受け皿となる事業者の創業と事業承継への支援
- ・地域資源の付加価値を高める取り組み
- ・商店街地区の商業振興や個店の販売促進

### (3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

#### ○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

|      |           |          |          |          |
|------|-----------|----------|----------|----------|
| 支援項目 | 創業支援      | 事業承継     | 経営革新計画   | 経営力向上計画  |
| 現在値  | 2 件       | 1 件      | 0 件      | 0 件      |
| 目標値  | 5 件       | 5 件      | 3 件      | 1 件      |
| 支援項目 | 持続化補助金    | 経営計画策定支援 | 経営改善普及事業 | マル経融資・件数 |
| 現在値  | 4 件       | 0 件      | 1,063 件  | 2 件      |
| 目標値  | 7 件       | 10 件     | 1,068 件  | 6 件      |
| 支援項目 | マル経融資・額   | 記帳継続指導   | 記帳機械化    | 労働保険     |
| 現在値  | 21,500 千円 | 18 件     | 42 件     | 107 件    |
| 目標値  | 29,763 千円 | 48 件     | 22 件     | 130 件    |

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

#### ○上記以外の具体的な取り組み

- ・雇用の受け皿となる創業・事業承継に関する個別相談会や町補助金の活用支援
- ・地域資源の付加価値を高める新商品や加工品の開発
- ・みのりスタンプ会と協調した売り出し等のイベント開催

### (4)実施し得る体制(環境)

#### ○あるべき体制

現在、本会は市街地にある商工会館を拠点として経営指導員1名、補助員1名、記帳専任職員1名、常用臨時職員1名の計4名で運営している。当面、支援体制や財政運営の大きな変化は見込まないものの、商工会館の修繕費用の捻出等を考慮すると、本会の財政運営は盤石とは云えず、業務効率化や省力化に取り組む必要がある。また、地域経済振興事業などの事業拡大や体制変化が生じることとなった場合は、その体制の確立と予算を確保する必要がある。

### (5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないため、現事業者支援体制は維持していくが、地域資源を活用した新商品や加工品を開発するには、町外の加工業者等と連携する必要があることから、地域外事業者を含めた広域的な事業者支援体制のあり方について5年以内に方向性を示す。

### (6)特記事項

#### ○町との協調体制の確立と安定的な支援の継続

町が「第5次六戸町総合振興計画(前期基本計画)」に掲げる“農産物のブランド化と特産品開発の促進”や“商工会による商工業者の育成と時代変化に対応した商工業経営の促進”、“物産・観光の振興”に本会が取り組み、その効果を十分発揮するには、安定的な体制の確保が必要である。そのため町との連携及び協調体制を強化し、商工会に対する安定的な支援(予算)の確保について確実なものとするため、町当局や議会との懇談会を通じて、本会が取り組む事業について一層の理解を求めていきたい。